

興亞議會の展望

路 傍 山 人

第七十五興亞議會も三月二十七日の閉院式舉行により全く閉幕となつた。閉會に際して米内首相の聲明には

一億國民一體となつての信念と決意とが、力強く反映せられた事は欣快に堪へない。軍備の充實、國民精神の昂揚、經濟力の擴充、戰時國民生活の確保を圖り以て國防力を強化して東亞再建の大事業完遂を期する爲、必要なる豫算案と、税制改革に關する諸法案その他多數の重要法案を提出したのであるが、これ等重要法案が兩院を通過したことは時局に顧み誠に慶賀に堪へない。

といふてゐる。『誠に慶賀に堪へない』譯である。政變の爲十日間の休會をなしたが、結局三月二十四日の最終日に全部の議案を議了し得ないので二日間の會期延長を行つたから、例年の通常議會の會期に比較して八日間短縮された

譯である。しかも阿部前内閣の法律案をその儘繼承し、準備が整はなかつたにも拘らず、百五十餘億圓の膨大な豫算と、百八件の法律案を通過し、政府提出の法律案はわづかに二件が握潰しに會つた。この審議未了の法律案は、瓦斯用木炭會社、癩豫防法中改正の兩法案のみで、政府にとつては一向痛痒を感じないもののみであるから未曾有の好成績である。即ち小山衆議院議長は閉會に際して、大要左の如き談話をなしてゐる。

開會實日は五十九日、その間本會議を開く事三十四回に及んだ。本會議に政府より提出せられた議案は、豫算案十六件を除いて法律案だけでも百十件あつたが、その中兩院通過は百八件である。これは議會開設以來のレコードである。

といふてゐる程の好成績を挙げ、眞に興亞議會に相應しく、國民は協力一致聖戰目的貫徹に邁進せんとする態勢を如實に具現した譯である。

× × ×

阿部内閣は昨年八月三十日成立以來、米穀、石炭、木炭等の生活必需品等の物資や經濟問題等で、國民の信賴が薄らぎつゝあつた矢先、昨年の暮例年の如く第七十五議會が招集せらるゝに及び、果然議會の問題となり、暮の二十六日には院内で各派の有志代議士會が開かれた。この有志代議士會は時局同志會と、政民兩黨の聯携派即ち月曜會と期せずして目的が一致したので、民政黨を初め政友會の中島、久原兩派、時局同志會、社大、第一議員クラブ等全院各派の有志約二百五十名參加して、左記決議をなした。

決 議

阿部内閣は大政輔弼の重責に鑑みその進退に關し善處せられんことを望む。

右決議を首相に提出したので、政局は愈々多端となり、

× × ×

慌しき政客の往來の中に昭和十四年も暮れた。正月になつてからも有志代議士世話人がしばし會合し、阿部内閣を倒壊しなければ止まない氣勢を示し、政府が工作をなす餘地がなく、さすがの秋田厚相も匙を投げるに至つた。かうして一月九日阿部首相は湯淺内府を訪問して心境を披瀝して總辭職を決意、次いで十四日には日曜にも拘らず最後の閣議を開き、午後九時四十五分阿部首相は閣僚の辭表を取纏めて參内閣下に辭表を奉呈した。よつて湯淺内府は近衛公、平沼男を初め各重臣と協議を遂げ、松平祕書官長をして興津の西園寺公を訪問せしめた上、御下問に奉答した。よつて同日夕刻、後繼内閣組閣の本命は米内大將に降下した。米内大將は同夜から組閣に着手し、先づ有田八郎、石渡壯太郎、廣瀬久忠諸氏を海相邸に招致して種々協議をなし、翌十五日は組閣本部を芝公園の水交社に移し、本格的閣僚銓衡に着手し、極めて順調に進捗同夜全部の顔觸れを決定、十六日に親任式を舉行組閣を完了した。

休會明け議會は十日間遅れて、二月一日開會せられ貴族院は順調に開かれ、米内首相、有田外相の施政方針並に外交演説と陸海兩相の戰況報告が行はれたが、衆議院は定刻の午後一時になつても開かれぬ。それは各派代表の質問演説順位の問題で各派交渉會が紛糾したからである。即ち民政黨の主張では第一黨の權威を保持する爲、民々、政々の順位となすべし、といふのであるが、政友兩派では、民、政々、民の順位となすべしと主張して譲らず、容易に纏らない、兎角する間に久原派では一策を案じ、政友兩派とその他の會派を一丸とした交渉團體を組織し、第一黨となつて民政黨にひと泡吹かせるばかりでなく將來新黨結成の前提としよとの議が起り、久原派から中島派を初めその他の會派に交渉を開始した。この情報聞いた民政黨は少なからず狼狽して急遽幹部會を開いて對策を協議し、又中島派でも事極めて重大なので輕々に態度を決定し得ないので對策をねる等、再開第一日目の劈頭からたゞならぬ空気が漲ぎつた。當日の各派交渉會はかうした豫期しない暗礁

に乗上げ容易に決定しないので、兎に角第一陣の質問は小川郷太郎氏を起たしむる事として午後三時十分漸く開會して豫定の順序だけを終つたが、質問順位の問題が未解決の儘に残されてゐるので、中島派では態度決定の爲、一日夜總裁邸で長老會議を開いた結果、結局中島派では久原派の交渉團體結成の申入れを拒絶する事に決定したので、前日來の質問順位問題は辛らふじて解決、二日は第二陣の中島派東郷實氏、次に民政、政友久原派、即ち民、政、民の順位に決定、圓滑に議事が進行するであらうと豫想されるに至つた。然るに二日の質問戦で齋藤隆夫氏の演説は偶然にも今期議會を通じて重大問題を惹起した。即ち同氏の演説内容は聖戰目的完遂上問題ばかりでなく、同氏の思想延びては民政黨代表なるが故に同黨も共同責任であるとの議論が一部に起り、民政幹部は勿論小山議長も終始發言せしめ何等の警戒も注意も與へないといふ責任上、これが善後措置につき大狼狽した。二日夜は民政黨幹部、小山議長等は政府並に衆議院當局と頻繁に往來、深更に及んで漸く一段

落を告げた。即ち齋藤氏の演說中後半は不適當と認めるから、これを速記録から削除し、齋藤氏に對し他の會派から懲罰に附するが如き事態が起つた場合は極力同氏を擁護するといふ事である。こゝで齋藤氏がどうして舌禍問題を起すに至つたかについて裏面の事情を簡単に述べて見よう。

× × ×

本會議の質問演説は各黨派共その黨派を代表するものであるから、國民に對する反映とその黨派の消長に重大な影響があるので、何れの黨派も全力を傾注するを例としてゐる。従てその日の先陣を承はるのと、二陣、三陣と議場がダレ氣味になつてから演壇に起つとのではその價値に於て甚だしく相違する。だから各黨派共その日の先陣を狙ふのだ。今議會では第一日目は民政一人、第二日目は中島派と民政黨で、第三陣は久原派の大口喜六氏の順位であつたから、齋藤氏の演説が約四十分位で午後四時過ぎ頃には終る豫定であつたが、それでは久原派の大口氏は議長の最もダレ切つた處で登壇せねばならぬ順序となるので、久原派で

は齋藤氏の演説を豫定より延べてその日は散會し、第三日目に大口氏を劈頭に登壇させようと、民政黨に對して右の申入れをなした。民政黨ではこれを諒承し、議場に於て民政黨の傍筆頭總務はメモの紙に『五時半頃迄引延ばしてくれ』と書いて演壇の齋藤氏に渡した。そこで齋藤氏は演説原稿の約三倍以上の時間を費やしたもので、原稿の分は問題は起らないが、引延た部分が大問題となつたものである。従て春秋の筆法を以てすれば『齋藤氏の舌禍問題を惹起させたものは久原派なり』ともいへる譯である。とまれ齋藤氏の演説の波紋は意外に大きく、やゝもすれば小山議長の責任は勿論、民政黨そのものも鼎の輕重を問はれる様な情勢となつたので、同黨は事極めて重大であるとなし、町田總裁を初め幹部は鳩首濔議の結果能ふ限り影響の範圍を縮小することに努め、齋藤氏離黨によつて事件の解決を圖らうとし、翌三日には齋藤氏と小泉顧問と俵院内主任總務が會見し直ちに離黨に決した。しかし或會派の如きは齋藤問題を契機に、民政黨を攪亂するばかりでなく、現状維持、政

黨の潰滅、革新政黨の結成その他等々の重大意圖の下に策動し初めたので、齋藤氏の離黨程度は斷じて承服せず、齋藤氏を懲罰委員會に附し、延ひては除名處分に附し、前記のあらゆる目的達成に邁進しやうとの容易ならざる情勢が馴致されるに至つた。かくの如く危悪な情勢となつたので、民政黨幹部も懲罰委員會に附した上、極力除名處分を食止めやうと、議長の宣告により懲罰に附するに決し三日の各派交渉會でそれに決定し、民政黨では代議會に報告した處、俄然反對論が擡頭し、收拾のつかぬ状態を呈した。この日は齋藤氏懲罰問題を繞つて各黨派の往來頻繁を極めたが、結局同夜の本會議に於て議長が『齋藤君を懲罰委員會に附す』との宣告をなして一應けりがついた。

× × ×

かくて齋藤氏の懲罰委員會は、二月五日中井一夫委員長（元内務參與官）の下にその第一回が開かれたが、委員會その後の情勢は除名の空氣が頗る濃厚である。しかし民政黨と政友久原派は除名反對に傾いてゐるから、數で押せば

除名反對が勝るを制する事は明かであつたが、政府は除名を希望する態度に出たので民政黨幹部も餘儀なく除名に傾かざるを得ない情勢となつた。そこで齋藤氏の友人達は同氏に辭職勸告をなし、除名處分以前に於て、けりをつけやうと圖り、齋藤氏も大體勸告を容れる様子であつた、處が齋藤氏は地元の有志の諒解を得る事になり三月二日の最終委員會を六日迄延期方を申出た。中井委員長はこれを諒承し民政黨も齋藤氏の自發的辭職を期待して居つた處、四日午前の岡崎久次郎氏邸の會合で自發的辭意を翻し熱海へ逃避行してしまつた。そこで又亦大騒ぎとなり、結局六日の委員會で全會一致除名に決定、七日の本會議に於ていよく本格的に除名せられ議員名簿から削除せられ、さしも大荒れに荒れた齋藤問題も終末を告げるに至つた。しかし此間民政黨では懲罰委員は殆んど辭職して新たな委員と交代し、除名に關する黨議決定の代議士會ではなぐり合ひが初まつたり、岡崎久次郎氏が離黨する等の騒ぎがあり、又政友久原派でも代議士會が大揉めに揉め、芦田、宮脇、名川、牧野、

丸山の五代議士の除名問題が起つたが、結局一時的には圓滿解決した。しかし議會最終日となつて『久原總裁の態度が氣に入らぬ』とて西岡竹次郎、肥田琢司、本田共作、玉野知義、中野寅吉の五代議士及び前代議士向井俊雄氏が脱黨し、又社會大衆黨も眞二つに分裂する等、近年議會史上に見ざる大きな波紋が描き出された。

× × ×

前記の如く齋藤問題は以外に大きく、これが解決に一ヶ月を要した。然らば齋藤問題は何故に大問題であるか、又何故除名しなければならなかつたかといふ事は國民の間には充分納得し得ないものが大多數であらう。國民の一部には齋藤氏に同情したのもあつたらうが、結局除名處分に附されたから何かその間不適當な言辭があつたらうと、想像するに過ぎないであらう。それは最もな次第であるが、國民にその真相を充分理解せしめるには演説の内容を公開せねばならぬのだが、それは速記録から削除したから公開は絶対に不可能である。従て充分納得し得ない點もないで

もなからうが、その言説中『帝國不動の方針を輕蔑否定してゐる事明かである』と或政黨が言明してゐる處によつても明かであるから、この程度で満足されたいものである。齋藤問題に重要な時日を要したので、従て豫算總會や本會議に於ける言論は極めて低調であつたばかりでなく、世間ではあまり關心をもたなかつた。しかし税制改正案は劃期的大改正であると共に國民の懷勘定に重大な關係があるので極めて熱心に論議され、修正案の各派協議會は名實共に徹夜でデツチ上げる等掉尾の勉強振りを見せた。第七十五帝國議會は兎も角好成绩で終幕となつたが、今後に残された問題は、全院有志代議士によつて結成された聖戰貫徹議員聯盟の今後の動向、分裂した社大、解體した時局同志會、久原派から脱黨した五代議士等の今後に於ける動きは大いに注目され、齋藤問題を廻り將來に迄波紋が持越された事は、いよ／＼時局が重大を加へて來た事を示唆するものではなからうか。